

平成 26 年 2 月 3 日

平成 25 年度地球環境基金助成事業

## ちば里山カレッジ実施報告書 (9)

特定非営利活動法人ちば里山センター

テーマ	第9回 里山体験活動 3 「フィールド研修 地域活動」 ～フィールドミュージアムと地域とのつながり～
日時	平成26年2月1日(土) 10:30～16:00 (バス移動のため ちば里山センター8:00集合～17:00解散)
場所	白井市 NPO 法人 しろい環境塾事務所&活動フィールド
出席者	受講生 29 名・千葉県緑化推進委員会 常務理事 伊藤道男・小西理事・スタッフ 2 名 講師 NPO 法人しろい環境塾 理事長 河合 泰 フィールドアシスタント 2 名(副理事長 里山保全部長)
内容	<p>ちば里山センターに集合した受講生は、バスで研修地に移動。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 11:00～12:00 「里山を活かしたまちづくり」理事長 河合 泰 しろい環境塾のフィールドに到着。旧平塚分校の教室において河合理事長の講義。 環境塾の指針から活動拡大の経緯を説明。不法投棄のゴミ処理や竹林整備など目に見える作業を通して、地元農家の信頼を得られたことで耕作放棄の田んぼや畑を借りることができたこと。野菜や米作りに取り組んだら生物が戻ってきて生物の多様性と生態系が復活してきていること。現在進めている「体験農園」が、従来の方式と違い今後の農家のビジネスとなることなど話された。受講生からの質疑応答。</li><li>・ 13:00名ほどの会員は「里山保全部」「農業支援部」「子どもの環境教育部」などのうち好きな部に所属して活動しているが、それぞれが助け合ってもいるとのこと。印象に残ったのは、農業支援で得た収入であっても個人には払われず、会の運営費に当てられるということ。農作物はその日活動した会員に分けられるそうだ。</li><li>・ 拠点ベースで昼食。20名ほどの会員さんたちが炭焼きの準備・竹とんぼ作りなどそれぞれの作業をされていたが、熱いコーヒーをサービスしていただいた。受講生と会員さんたちの交流の時間だった。</li><li>・ 13:00～15:00 午後はバスでフィールド巡り。まず運動公園の森に出かけ、白井市から委託された林の管理や遊歩道づくりについて里山保全部長より説明。整備を進めるふれあいパークから特別保全緑地までぐるりと歩きながら、里山活動の実績と今後の課題を話していたが、同行の伊藤道雄理事からは広葉樹林の間伐を勧められたようだ。</li><li>・ 続いて山王谷津田に移動して、冬水田でニホンアカガエルを呼び戻した生きもの復活作戦について理事長が説明。県の助成金で地下水ポンプを設置し、会員が毎日交代で田に水を入れてきたこと、この一帯にはサシバやオオタカが生息すること、斫伐した竹をチップにし堆肥をつくることなど興味深い話だった。大根と人参の切干が甘くて美味しかった。</li></ul>
備考	地元の方々との信頼関係が築かれるまでは活動を理解してもらえなかった。体験型農園は新しい農業支援であると同時に、新規農業従事者を育てるシステムであると思う。

添付資料（写真）



旧平塚分校



理事長による講義



質疑応答



拠点ベース



会員との交流



講師の方々



運動公園の森



遊歩道



よく手入れされている



田んぼの復活



ヤマアカガエルの卵塊が見つかった所



山王谷津田



あぜ道を歩く



谷津田の周囲に埋立が迫る



竹チップの堆肥